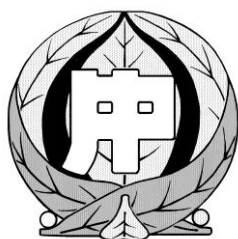


令和7年度

学 習 案 内



川口市立戸塚中学校

学習案内（シラバス）とは？

シラバスとは、学校で行われる授業等の年間学習案内のことです。これから、何を、何のために、いつ、どう学ぶのか、その学習がどのように評価されるのかを知らせるものです。

生徒の皆さんは、家庭等での学習計画を立てるための参考にしてください。保護者の皆様におかれましては、親子の対話のきっかけとしてお役立てください。

＜具体的な内容＞

- 1 教科の目標
- 2 学習内容
- 3 学習計画
- 4 評価の観点と評価規準、評価方法

戸塚中学校 評価・評定の考え方

1 評価

教科ごとに評価の基準が決められています。本校では基準に沿って観点の評価を「㊤」、「A」、「B」、「㊤」、「C」の5段階とし、目標に準拠した評価を行っています。

＜判断基準＞

㊤：「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの

⇒ 「A」評価

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの ⇒ 「A」評価

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの ⇒ 「B」評価

㊤：「努力を要する」状況と判断されるもの ⇒ 「C」評価

C：「一層努力を要する」状況と判断されるもの ⇒ 「C」評価

※新学習指導要領では、3つの段階で評価することになっており、本校の通知表では、「㊤」「A」は「A」、「㊤」「C」は「C」と表記します。

2 評定

各教科で、観点別に出された評価をもとに、「1」～「5」の5段階で評定を出します。

＜判断基準＞

5：「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの

4：「十分満足できる」状況と判断されるもの

3：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの

2：「努力を要する」状況と判断されるもの

1：「一層努力を要する」状況と判断されるもの

評定に総括する際の観点別学習状況の評価結果について同じ「A」「B」「C」という評価結果についても、それぞれの評価結果が示す実現状況には幅があり、このことが評定への総括に反映されます。よって、一例として「AAA」であれば「4」又は「5」、「BBB」であれば「3」、「CCC」であれば「2」又は「1」になります。

令和7年度 国語科学習案内

1 国語科の目標

言語活動を通して、国語を正確に理解し、適切に表現する力を高めることをねらいとしています。そして、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、「伝え合う力」を高め、思考力や想像力、国語を尊重する態度を養っていきます。

2 学習内容

三年間を通じて、スピーチ等の話す・聞く分野、意見文等を書く分野、論説文や小説・随筆、詩歌等の文章を読む分野、書写や漢字、文法等の言語事項の分野の学習をします。

3 学習計画

	第1学年	第2学年	第3学年
1学期	「①学びをひらく」「②新しい視点で」 「③言葉に立ち止まる」	「①広がる学びへ」「②多様な視点から」 「③言葉と向き合う」	「①深まる学びへ」「②視野を広げて」 「③言葉とともに」
2学期	「④心の動き」「⑤筋道を立てて」 「⑥いにしえの心につれる」 「⑦価値を見いだす」	「④人間のさずな」「⑤論理を捉えて」 「⑥いにしえの心を訪ねる」 「⑦価値を語る」	「④状況の中で」「⑤自らの考えを」 「⑥いにしえの心を受け継ぐ」 「⑦価値を生み出す」
3学期	「⑧自分をみつめる」 漢字・文法・書写・スピーチ等上記の活動	「⑧表現を見つめる」	「⑧未来へ向かって」 漢字・文法・書写・スピーチ等上記の活動の間に入ってきます。事情により、教材の順番を入れ替えることもあります

4 評価の観点と評価規準、評価方法

評価の観点	規準	方法
知識・技能	「言葉（漢字、語彙、文法、敬語など）」の特徴や使い方を理解し、身につけるとともに、情報の扱いや伝統的な言語文化（古典、書写、読書）を理解し、習得した知識をもとに適切に活用できる技能を身に付けている。	定期テスト 小テスト（漢字、文法、ことわざ等の言語事項、敬語、歴史的仮名遣い、返り点等） 古典暗唱 音読 情報の扱い方に関する事項 授業での取り組み
思考・判断・表現	目的や場面に応じて話し、聞き、伝え合うとともに、目的や意図、課題に合った文章を書き、文章の種類（文学的文章、説明的文章など）に応じた的確に内容を読み取ることができる。	定期テスト スピーチ 作文 提出物 授業での取り組み
主体的に学習に取り組む態度	授業に対し、主体的・積極的に取り組むとともに、小テストや作文、スピーチなどの課題に粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。	授業での取り組み 小テスト、作文、スピーチ 提出物 単元の振り返り

令和7年度 社会科学習案内

1 社会科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ方、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。

2 学習内容

3年間を通して地理分野と歴史分野、さらに公民分野を学びます。地理ではまず世界地理から学び、世界とのつながりの中で日本地理を学んでいきます。歴史は古代から現代までを多面的・多角的な視点をもって学びます。公民は現代社会の諸問題を取り上げながら、法律や政治の仕組み、経済など幅広い分野を学びます。

3 学習計画

	第1学年	第2学年	第3学年
1学期	(歴史)古代までの日本 (地理)世界の姿 日本の姿 世界のさまざまな地域	(歴史)近世の日本 (地理)日本のさまざまな地域	(歴史)二度の世界大戦と日本 ～現代の日本と世界 (公民)私たちの生活と現代社会
2学期	(歴史)古代までの日本～中世の日本 (地理)世界のさまざまな地域	(歴史)近世の日本 (地理)日本のさまざまな地域 ～地域の在り方	(公民)人間の尊重と日本国憲法 ～現代の民主社会と社会
3学期	(歴史)中世の日本	(歴史)開国と近代日本の歩み	(公民)私たちのくらしと経済 ～地球社会と私たち

4 評価の観点と評価規準、評価方法

(1) 評価の観点

	観 点	観 点 の 要 旨
1	知識・技能	・地図や写真、歴史資料などから必要な情報を読み取り、また自身の思考判断の材料となるように活用できているか ・社会的事象についての知識力・理解力が備わっているか
2	思考・判断・表現	・物事を多面的・多角的に思考し判断し、学んだことを様々な方法で積極的に表現できているか ・社会的事象に関して、自ら考え、判断したことを説明、議論できているか
3	主体的に学習に取り組む態度	社会的事象へ興味関心をもって意欲的な態度で学ぼうとしているか 学習した社会的事象について、自己の考えを構築し、多様な価値に触れ、自ら考え、判断し、主体的に学ぼうとしているか

(2) 評価・評定の仕方

	観 点	評 価 の 仕 方
1	知識・技能	定期テスト、各分野でのまとめ学習、提出物の内容など、その他
2	思考・判断・表現	定期テスト、各分野でのまとめ学習、提出物の内容など、その他
3	主体的に取り組む態度	課題に対しての自分の考え・感想、提出物、各分野でのまとめ学習 ※様々な社会的事象を理解し、自己の考えを持つことができているか 感想等で評価を行います。

令和7年度 数学科学習案内

1. 数学科の目標 (学習指導要領 平成29年告示)

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

2. 学習内容

「数と式」…計算に関わること
 「図形」…形についての特徴に関わること
 「関数」…複数の量について関わること
 「データの活用」…数の処理に関わること
 の4つの内容について系統的に学習します。算数と同様に正しい答えを求めるだけでなく、理由を明らかにしながら説明したり示したりすることも大切です。さらに、数学独特の表現の方法について理解を深めて、読み解くことができるようになることを身に付けていきます。

3. 3年間の学習計画 (使用教科書 「未来へひろがる数学」(啓林館))

	1 学 期	2 学 期	3 学 期
1 年	1章 正の数・負の数 (28 時間) 2章 文字の式 (23 時間)	3章 方程式 (18 時間) 4章 変化と対応 (21 時間)	5章 平面図形 (18 時間) 6章 空間図形 (20 時間) 7章 データの活用 (12 時間)
2 年	1章 式の計算 (18 時間) 2章 連立方程式 (16 時間)	3章 一次関数 (21 時間) 4章 図形の調べ方 (17 時間)	5章 図形の性質と証明 (20 時間) 6章 場合の数と確率 (6 時間) 7章 箱ひげ図とデータの活用 (7 時間)
3 年	1章 式の展開と因数分解 (21 時間) 2章 平方根 (19 時間) 3章 二次方程式 (21 時間)	4章 関数 $y=ax^2$ (16 時間) 5章 図形と相似 (23 時間) 6章 円の性質 (14 時間)	7章 三平方の定理 (17 時間) 8章 標本調査とデータの活用 (9 時間)

4. 評価の観点と評価規準、評価方法

* 知識・技能

基本的な概念や原理、法則などの知識をもとに、数学的に表現・処理する技能。自分の考えを表現できる技能を、定期テスト・小テスト・ディスカッション、レポートやノート等提出物、授業での様子などで評価します。

* 思考力・判断力・表現力

知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを、定期テスト・小テスト・ディスカッション、レポートやノート等提出物、授業での様子などで評価します。

* 主体的に学習に取り組む態度

学ぶことに興味・関心を持ち、見通しや目的意識をもって粘り強く取り組む中で、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているかを、評価カードやノートや問題集やレポートの工夫、授業中の発言、取り組みや活動から評価します。

【評価方法】

上記3つの観点をA・B・Cの3段階で評価し、 $A \rightarrow 5 \cdot 4$ $B \rightarrow 3$, $C \rightarrow 2 \cdot 1$ で数値化する。

その合計により評定を決定する。

合計 15～14→評定 5 合計 13～11→評定 4 合計 10～8→評定 3 合計 7～5→評定 2 合計 4～3→評定 1

令和 7 年度 理科学習案内

I 理科の目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然の事物、現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うことをねらいとしています。

〈理科の授業でどんな学力をつけるのか〉

- 自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度
- 自然の事物・現象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決する能力
- 観察、実験の基本操作の習得
- 自らの考えを的確に表現する能力
- 自然の事物・現象についての、基本的な概念や原理・法則の理解

2 学習内容

理科における1年間の学習の内容は、「化学分野」「生物分野」「物理分野」「地学分野」に分かれています。化学分野は物質の性質や化学変化など、生物分野は植物・動物や自然環境など、物理分野は物体の運動や音・光など、地学分野は、火山・地殻変動や気象、天体の運動などの内容を学習します。

3 3年間の学習計画

	1学期	2学期	3学期
1年	いろいろな生物とその共通点	身のまわりの物質	身のまわりの現象
2年	化学変化と原子・分子	生物の体のつくりとはたらき	天気とその変化
3年	化学変化とイオン	生命の連続性	運動とエネルギー

4 評価の観点と方法

理科では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。観点ごとに、日頃の学習状況を次の方法で観察しながら、絶対評価を行います。

① 知識・技能

知識については、基礎的な知識を身につけているか、自然現象についての理解を深めたかを、ノートやレポート、テストなどにより評価します。技能については、実験・観察の基本操作の習得状況、実験・観察から導き出される結果を正しく記録し課題解決できる能力を、実験・観察中の器具の扱い方や実験の操作の状況、レポートやテストの内容などにより評価します。

② 思考・判断・表現

実験の結果の推察、結果の正当性の判別、結果からの考察力や、それを他者に伝えあったり、自分の考えや知識を説明したりする能力を、実験のレポート内容、自己評価シートの変化、テストなどにより評価します。

③ 主体的に学習に取り組む態度

積極的な発言や、実験・観察に取り組む意欲や態度をはじめとし、一つの課題に対し粘り強く取り組み続ける態度や、自ら新しい課題を発見し、より深い学びにむかう主体性を評価します。評価は授業中の発言や活動、ノートやプリントの内容、自己評価シートの変容など様々な部分をみて総合的に評価します。

令和7年度 音楽科学習案内

1 音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 学習内容

歌唱・器楽・鑑賞・創作の4領域を学習します。歌唱では混声合唱を中心に取り組み、器楽では弦楽器や和楽器に触れながら音楽活動を実践していきます。鑑賞では、音楽を形づくっている要素に注目しながら、曲の形式を理解して曲全体を味わいます。創作では、リズム創作など取り組みやすい創作活動を中心に学習を進めていきます。

3 3年間の学習計画

	第1学年	第2学年	第3学年
1学期	・校歌 ・鑑賞 ・日本の歌 ・三線 他	・鑑賞 ・日本の歌 ・三線 ・リコーダー 他	・鑑賞 ・日本の歌 ・三線 他
2学期	・鑑賞 ・混声合唱 ・リズム創作 他	・鑑賞 ・混声合唱 ・リコーダー 他	・鑑賞 ・混声合唱 ・旋律創作 他
3学期	・鑑賞 ・和楽器 ・混声合唱 他	・鑑賞 ・和楽器 ・混声合唱 他	・鑑賞 ・和楽器 ・混声合唱 他

4 評価の観点と評価規準、評価方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化の親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	音楽活動への取り組み 筆記・実技テスト 作品	音楽活動への取り組み 筆記・実技テスト 学習プリントや振り返りシートの記述内容 発言の内容 作品	音楽活動への取り組み 筆記テスト 学習プリントや振り返りシートの記述内容 作品

令和 7 年度 美術科学習案内

1 美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 学習内容

各学年とも、絵画・彫刻・工芸・鑑賞と幅広く学習をします。作品は学期ごとに制作をし、美術展に出品したり、校内に掲示したりもします。作品を制作していく中で、材料の特質や道具の使い方を学び、色や形などの組合せを考え、自分の表現したい主題を表せるようになること目指しています。また、自分の作品や他人の作品のよいところを素直に感じ取り、自然や美術作品などについて基礎的な理解や見方を広げる活動も行います。

3 3年間の学習計画

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
1 学期	・見方を工夫しよう ・絵の具で遊ぼう ・マイグラデーション ・風景画の鑑賞Ⅰ	・形や色がもたらす効果 ・画用紙を使った立体 ～形は語る、チャレンジ立体～ ・風景画の鑑賞Ⅱ	・切り文字 ・一点透視図法を用いた部屋の デザイン～My room～ ・風景画の鑑賞Ⅲ
2 学期	・風景画（夏休みの宿題） ・部活動のシンボルマーク ～デザイン～	・風景画（夏休みの宿題） ・切り文字（篆刻につなげよう） ・篆刻(石の彫刻の導入)	・風景画（夏休みの宿題） ・私が飾る 1 枚（立体表現） オリジナルフレームづくり
3 学期	・ピクトグラム制作 ・とびだす「CUBE」 紙のパズルづくり	・篆刻(石の彫刻の制作)	・卒業制作 ～マイ タンブラー～

全学年、題材ごとに鑑賞活動を行う。

4 評価の観点と評価規準、評価方法

評価の観点	評価の規準	評価の方法
知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、見通しをもって創造的に表現する。	・授業の様子 ・アイデアスケッチ ・作品
思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさの調和、美術の働きなどについて考える。 ・主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	・アイデアスケッチ ・作品 ・プリント ・鑑賞プリント ・作品の振り返り
主体的に学習に取り組む態度	・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・授業の準備 ・授業の態度 ・提出物状況 ・作品の振り返り

令和 7 年度 保健体育科学習案内

1 保健体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。

2 学習内容 3 年間の学習計画

	1 学期	2 学期	3 学期
1 年生	・ 体づくり（体ほぐしの運動） ・ 陸上（短距離走・リレー） ・ 球技（バレーボール） ・ 水泳（クロール・平泳ぎ）	・ 器械運動（マット運動） ・ 球技（ソフトボール） ・ 武道（柔道） ・ 陸上（長距離走） ・ ダンス（フォークダンス）	・ 球技（バスケットボール・サッカー）
	保健(心身の発達と心の健康・健康な生活と疾病の予防)		
2 年生	・ 体づくり（体ほぐしの運動） ・ 球技（ソフトテニス） ・ 陸上（走り幅跳び） ・ 水泳（クロール・平泳ぎ）	・ 陸上（長距離走） ・ 器械運動（跳び箱運動） ・ 武道（柔道） ・ ダンス（現代的なリズムのダンス）	・ 球技（バスケットボール・サッカー）
	保健(傷害の防止・健康な生活と疾病の予防)		
3 年生	・ 体づくり（体ほぐしの運動） ・ 球技（ソフトテニス・バレーボール） ・ 陸上（短距離走・走り幅跳び） ・ 水泳（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ）	・ 陸上（長距離走） ・ 器械運動（マット運動・跳び箱運動） ・ 武道（柔道・剣道） ・ ダンス（現代的リズムのダンス） * 柔道・剣道・ダンスから選択	・ 球技（バスケットボール・ハンドボールから選択）
	保健(健康な生活と疾病の予防・健康と環境)		

4 評価の観点と評価規準、評価方法

評価の観点	評価の規準	評価方法
知識・技能	・ 学年に応じた基本的な技能を身につけている。 ・ はじめの段階よりも技能や体力を高めることができる。 ・ 運動の特性に合わせて技能を応用できる。 ・ 運動における技能構造を理解できる。 ・ 運動の技能や健康・安全に関する基礎的な事項を理解することができる。 ・ 学習の場の安全について理解して活動することができる。 ・ 保健学習の成果を生活に生かすことができる。	技能テスト 授業観察 単元テスト
思考・判断・表現	・ 活動の仕方を理解してやるべきことに取り組むことができる。 ・ 学習カードに自身の課題や目標、感想などがきちんと記入することができる。 ・ お互いに助け合い、励まし合いアドバイスすることができる。 ・ 課題を見つける手立てを理解することができる。 ・ 教科書や学習資料の活用の仕方を理解することができる。	学習カード 授業観察
主体的に学習に取り組む態度	・ 事前の準備をしっかりと行うことができる。 ・ 正しい服装で運動を行い、時間を守ることができる。 ・ 集団行動を守り、集合整列を機敏に行うと共に、説明を集中して聞くことができる。 ・ 準備運動など、正確な動きで各部位を曲げたり伸ばしたりできる。 ・ 役割分担など、責任を持って取り組むことができる。 ・ 楽しさや喜びを味わうことができる。 ・ 練習や挑戦などに積極的に取り組むことができる。	授業観察

令和7年度 技術・家庭科学習案内

【学習目標】
技術・家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 学年間の履修計画（技術分野） 8 7 時間計画					
1 学年	【A(1)アイ(2)アイ(3)アイ】			【D(1)アイ】	
	「身のまわりを整理する作品を作って身近な生活の問題を解決しよう」 （2 5）			「コンピュータの基本的な構成や役割を理解し情報モラルを考えよう」（1 0）	
2 学年	【C(1)アイ(2)アイ(3)アイ】			【B(1)アイ(2)アイ(3)アイ】	
	「LEDライトの製作を通して持続可能な社会について考えよう」 （2 5）			「野菜の栽培技術をもとに食料生産等に関わる問題を考えよう」（1 0）	
3 学年	【D(2)アイ(3)アイ(4)アイ】 【C(1)アイ(2)アイ(3)アイ】				
	「デジタル作品の設計と制作」「プログラミングによる計測・制御」 (1 7)				
3 学年間の履修計画（家庭分野） 8 8 時間計画					
1 年	【A(1)ア】	【A(3)アイ】	【B(4)アイ(5)アイ】	【B(6)アイ	【C(1)アイ(2)アイ】
	題材1(2) 「ガイダンス」	題材2(4) 「家族・家庭生活」	題材3(1 8) 「衣食住の生活」	題材4(4) 「住まいの働き」	題材5(7) 「身近な消費生活と環境」
2 学年	【B(1)アイ(2)アイ】		【B(3)アイ】		【B(3)イ】
	題材6(1 0) 「衣食住の生活」		題材7(2 0) 「食品の選択と保存」		題材8(5) 「地域の食材と食文化」
3 学年	【A(1)ア(2)アイ】			【A(2)イ】	
	題材9(8) 「私の成長と家族」			題材10(1 0) 「幼児とのふれあい」	

内容のまとめ 技術分野

A 材料と加工の技術 (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術 ア 材料や加工の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み イ 技術に込められた問題解決の工夫 (2) 材料と加工の技術による問題の解決	イ 問題の発見と課題の設定、電気回路や力学的な機構などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正 (3) 社会の発展とエネルギー変換の技術 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念
--	---

ア 製作に必要な図、安全・適切な製作、検査・点検など イ 問題の発見と課題の設定、成形の方法などの構想と設計の具体化、製作の過程や結果の評価、改善及び修正 (3) 社会の発展と材料と加工の技術 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 B 生物育成の技術 (1) 生活や社会を支える生物育成の技術 ア 生物の成長などの原理・法則と基礎的な技術の仕組み イ 技術に込められた問題解決の工夫 (2) 生物育成の技術による問題の解決 ア 安全・適切な栽培又は飼育、検査など イ 問題の発見と課題の設定、育成環境の調節方法の構想と育成計画、栽培又は飼育の課程や結果の評価、改善及び修正 (3) 社会の発展と生物育成の技術 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 C エネルギー変換の技術 (1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ア 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み イ 技術に込められた問題解決の工夫 (2) エネルギー変換の技術による問題の解決 ア 安全・適切な製作、実装、点検、調整など	イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用 D 情報の技術 (1) 生活や社会を支える情報の技術 ア 情報の表現の特性等の原理・法則と基礎的な技術の仕組み イ 技術に込められた問題解決の工夫 (2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 ア 情報通信ネットワークの構成、安全に情報を利用するための仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等 イ 問題の発見と課題の設定、メディアを複合する方法などの構想と情報処理の手順の具体化、制作の過程や結果の評価、改善及び修正 (3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決 ア 計測・制御システムの仕組み、安全・適切な制作、動作の確認、デバッグ等 イ 問題の発見と課題の設定、計測・制御システムの構想と情報処理の手順の具体化、制作の過程や結果の評価、改善及び修正 (4) 社会の発展と情報の技術 ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえた技術の概念 イ 技術の評価、選択と管理・運用、改良と応用
---	--

内容のまとめ 家庭分野

A 家族・家庭生活 (1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働 (2) 幼児の生活と家族 ア (ア) 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 (イ) 幼児の遊びの意義、幼児との関わり方 イ 幼児との関わり方の工夫 (3) 家族・家庭や地域との関わり ア (ア) 家族の協力と家族関係 (イ) 家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方 イ 家庭関係をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族、幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価 B 衣食住の生活 (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア (ア) 食事が果たす役割 (イ) 中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣 イ 健康によい食習慣の工夫 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア (ア) 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 (イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量、献立作成の方法 イ 中学生の1日分の献立の工夫 (3) 日常食の調理と地域の食文化 ア (ア) 用途に応じた食品の選択 (イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理 (ウ) 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 (エ) 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理 イ 日常の1食分のための食品の選択と調理計画及び調理の工夫	(4) 衣服の選択と手入れ ア (ア) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択 (イ) 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ イ 日常着の選択や手入れの工夫 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫 (6) 住居の機能と安全な住まい方 ア (ア) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能 (イ) 家族の安全を考えた住空間の整え方 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価 C 消費生活・環境 (1) 金銭の管理と購入 ア (ア) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理 (イ) 売買契約の仕組み、消費者被害、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫 (2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価
--	--

評価の観点及びその趣旨

知識・技能 生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	思考・判断・表現 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
---	--	--

技術分野の評価の観点の趣旨			家庭分野の評価の観点の趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術について理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	積極的に取り組む意欲や態度などを重視します。主に作業や実習、計画立案への積極性、レポートや実践記録などを評価します。 ○授業に対する意欲(チャイム着席、忘れ物、服装等) ○授業中の活動状況 ○作品の進度 ○論述 ○レポート 習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり、創造したりする能力を測ります。作品や作業、実習中の工夫の様子などを評価します。 ○授業中の活動状況 ○作品の進度 ○工具の取り扱い ○発表やグループでの話し合いの内容 生活の場面で必要とされる基礎的な技術の習得状況の評価します。主に作品の完成度や実習中の道具の使い方等を見ます。 ○製図(正確に線が引けているか) ○工具類を正しく使用しかつ正確に加工しているか。○作品の完成度 ○行動観察 ○具体物や記録写真 基礎的な知識を身に付けているか、また、生活と技術の関わりについて理解を深めたかを評価します。主に学習プリントやレポート、ノートテストから評価します。 ○授業中や教科書で得た知識を正しく理解して活用しているか。 ○定期テスト ○確認テスト ○実技テスト ○ポートフォリオ等		

技術・家庭の履修方法

1年生、2年生は前後期制で行います。前後期の切り替えは学校の時間割の切り替えの時期に準じます。

3年生は隔週で技術分野、家庭分野の授業を行います。

1年生は、前期 家庭分野、後期 技術分野を行い、
前期期末テストは家庭分野のみ100点満点(テスト時間50分)を2学期中間テストに行います。
後期期末テストは技術分野のみ100点満点(テスト時間50分)を学年末テストに行います。

2年生は、前期 技術分野、後期 家庭分野を行い、
前期期末テストは技術分野のみ100点満点(テスト時間50分)を2学期中間テストに行います。
後期期末テストは家庭分野のみ100点満点(テスト時間50分)を学年末テストに行います。

3年生は、技術分野・家庭分野を一週おきに行います。
テストは1学期末の期末テストに技術分野50点、家庭分野50点合わせて100点満点のテストを行います。(テスト時間は50分)
2学期末の期末テストも同様のテストを行います。
3学期末の学年末テストは行いません。

通知表について

1年生、2年生は前後期制で行うため1学期の通知表には、評価評定が入らずに空欄になります。
前期の評価評定は、2学期の欄にそれぞれ行った分野の評価評定が入ります。
後期の評価評定は、3学期の欄にそれぞれ行った分野の評価評定が入ります。
学年の欄には、技術分野・家庭分野両方合わせた評価評定が入ります。

3年生は、1学期、2学期共に技術分野・家庭分野合わせた評価評定が入ります。3学期は評価評定が入らず空欄になります。学年の欄には、1学期・2学期合わせた評価評定が入ります。基本的には調査書の評定に観点の評価がついたものになります。

令和7年度 英語科学習案内

1 英語科の目標

- 外国語によるコミュニケーションにおける有効な見方・考え方を身に付ける
- 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する

2 学習内容

戸塚中の英語科では、コミュニケーションを「読む・聞く・書く・話す（やり取り・発表）を統合した能力・技能」と捉えています。

- ① 読む：教科書本文の解釈や、他の教材の英文読解で高めます。
- ② 聞く：会話や音声を聞いて答える問題などのリスニング活動で高めます。
- ③ 書く：自分の考えや、状況説明などの英作文で高めます。
- ④ 話す（やり取り）：日々のペアワークでの日常会話や、ピクチャーテリングなどの会話で高めます。
- ⑤ 話す（発表）：定期的実施するスピーチ等のパフォーマンステストで高めます。

3 3年間の学習計画

1年	・気持ちや状態を表す語 ・色を表す語 ・国の名前 ・数を表す語 ・日付や月を表す語 ・アルファベット ・英語の音とつづり ・ "I am ～. I like ～. / I don't like ～. I can ～. / I can't ～." ・ローマ字 ・ "Are you ～? Do you ～? Can you ～?" ・ "What do you ～? I like dancing. I want to ～." ・ How many ～? ・ am, are / 一般動詞 / can ・ "He is ～. / She is ～. Who is ～? Is he ～? / He isn't ～." ・ "Where is ～? Watch your step. When is ～?" ・ Whose ～? ・ 代名詞 ・ "She likes ～. Does she ～? She doesn't ～." ・ is / 3人称単数現在形 ・ "Which ～? How much ～?" ・ What time ～? ・ 疑問詞 ・ "I went ～. Did you ～? It was ～." ・ 動詞の過去形 ・ 既習の表現 ・ "I am baking ～. Are you baking ～? It looks ～." ・ 現在進行形 ・ 発音とつづり ・ カテゴリー別語彙
2年	"I went ～. / How was ～? I was studying ～. When I was ～." ・ 動詞の過去形 / 過去進行形 ・ "I don't like playing ～. Hajin wants to ～. I think (that) ～." ・ 動名詞 / 不定詞〈名詞的用法〉 ・ "May I ～? Can you ～?" ・ "I'm going to ～. It will ～. If you are ～." ・ be going to / will ・ "Shall I ～? Will you ～?" ・ "There is ～. / There are ～. Show me the leaflet. a place to stay" ・ "Could you ～? How long ～?" ・ 目的語

2年	・ "have to / don't have to, must / must not, should / should not" ・ I think you should ～. ・ 助動詞 ・ "He's here to help you. ～ because …, I'm glad to hear ～." ・ 不定詞〈形容詞的用法・副詞的用法〉・接続詞 ・比較級, 最上級, as ～ as … ・ 比較表現 "were written by ～, make me nervous, want you to do ～" ・ 受け身の文 ・カテゴリー別語彙
3年	・ "The classes are taught ～. Let me show you ～. Ms. Brown told us that ～." ・ "現在完了形〈完了〉 現在完了形〈経験〉" ・ "現在完了形〈継続〉 現在完了進行形 It is ～ for us to …" ・ 現在完了形 / 現在完了進行形 関係代名詞〈主格〉which, who, that ・ "関係代名詞〈目的格〉which, that 接触節" ・ "two people playing ～, T-shirts designed by ～, Tell us why you are ～." ・ 後置修飾 ・ "what to expect ～, If I could ～, I would …" ・ I wish you weren't ～. ・カテゴリー別語彙

4 評価の観点と評価規準、評価方法

評価の観点	評価規準
①知識・技能	○ 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 ○ 使用する言語材料の提示がない状況においても、それらを用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けている。
評価の方法	☆ パフォーマンステスト・・・英語使用の正確さ ☆ ワークシート・・・言語活動で使用したワークシートへの記述内容（英語使用の正確さ） ☆ 活動観察・・・英語使用の正確さ ☆ ペーパーテスト・・・英語使用の正確さを評価する問題
②思考・判断・表現	○ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報や概念、要点などを捉え、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や分を用いて話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしている。
評価の方法	☆ パフォーマンステスト・・・設定された目的、場面、状況等での、英語使用における内容面の適切さ ☆ ワークシート・・・言語活動で使用したワークシートへの記述内容（内容の適切さ） ☆ 活動観察・・・英語使用における内容の適切さ ☆ ペーパーテスト・・・英語使用における内容の適切さを評価する問題

③主体的に学習に取り組む態度	○ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価の方法	☆ パフォーマンステスト・・・課題解決等に取り組む態度 ☆ 振り返りカード・・・記述内容の分析（粘り強い取組や自己調整の様子、取組の変容など） ☆ ポートフォリオ・・・言語活動から生徒の変容を分析 ☆ 活動観察・・・言語活動においてよりよく伝えようとする工夫等、相手への配慮の様子 振り返りの記述内容が活動への取組に表出している様子 ☆ ワークシート・・・言語活動で使用したワークシートへの記述内容

5 5ラウンドシステム

同じ教科書を年間で何度も繰り返し学習することで英語の定着を図る指導法。通常の授業のように教科書を1年間かけて学ぶのではなく1年間で教科書の全単元をまとめて2～3カ月の周期で繰り返し扱う。それぞれのラウンドで扱う視点を変えながら同じ本文を繰り返し学習することで、徐々に英語に慣れながら理解を深め、発信力も高めていくことができる。

ROUND 1	本文を聞くことによる【音声中心の概要理解】ができる
ROUND 2	本文を聞くことによる【音声と文字の一致】ができる
ROUND 3	本文の内容を理解した上での【音読】ができる
ROUND 4	本文の穴あきシートによる【文の音読を意識した音読】ができる
ROUND 5	自分の言葉で本文のストーリーを伝える【話す・書くリテリング】ができる